

ヤマコン(山形市)

国内最長級46mポンプ車導入

新国立競技場などで活躍へ



コンクリート圧送業のヤマコン(山形市 佐藤隆彦代表取締役社長)は、国内最長クラスの46・0メートルポンプ車を登録したコンクリートポンプ車を導入した。2020年の東京オリンピック開催に向けた大型工事や、関東地区での受注拡大などが目的だ。

このポンプ車は、ドイツに本社を置く「ブツマイスター」が製作し、日本の道路事情に配慮し従来型より全長を短く、かつ軽量化を図ったことが最大の特徴。ブーム形式は全油圧5段階屈折RZ式で、車両全長1万2000ミリ、車両全幅2500ミリ、車両全高3800ミリ、車両総重量32・5ト。最大吐出圧は8・5MPaで、1時間当たりの最大吐出量は160立方メートルにも及ぶ。

国内で一般的に使われているブーム長36メートルのポンプ車ではマンション12階までが限界だったが、今回のポンプ車では17階まで届くこととなり、より広範囲での作業が可能となった。また、特別な許可を得て車検を取得したため、ウルトラロングブーム車であるにも関わらず昼間走行や高速道路走行など、ほとんどの公道で走ることができる。



佐藤社長とマーチンCEO(右)

合わせてブツマイスターのマーチン・クノートゲンCEOがドイツから来日し、同社を表彰訪問した。マーチンCEOは「弊社にとって日本は重要なマーケット。ヤマコンとのパートナーシップを通じて日本の建設現場の生産性向上に寄与していくとともに、今後日本へ積極的に投資したい。納車に立ち会えたことを名譽に思う」と話し、メモリアルプレートを佐藤社長に手渡した。佐藤社長は「われわれとブツマイスターは価値観を共有できる仲間である。一緒になって日本の市場を開拓していきたい」と意気込みを語った。

同社では今後、このポンプ車を9月末に新潟県関川村の橋梁工事で初めて使用するほか、10月からは新国立競技場の建設現場でも活躍する予定となっている。